

目 次

緒 言

第一篇 沿 革

第一章 本邦鐵道發達ノ梗概

第二章 鐵道橋梁ノ沿革

第一節 初期ノ官線

第二節 初期ノ私設會社線

- (一) 日本鐵道會社線
- (二) 山陽鐵道會社線
- (三) 甲武鐵道會社線
- (四) 關西鐵道會社線
- (五) 九州鐵道會社線
- (六) 北海道炭鐵鐵道會社線
- (七) 總武鐵道會社線
- (八) 參宮鐵道會社線
- (九) 房總鐵道會社線
- (十) 京都鐵道會社線
- (十一) 北越鐵道會社線
- (十二) 西成鐵道會社線
- (十三) 七尾鐵道會社線
- (十四) 阪鶴鐵道會社線
- (十五) 岩越鐵道會社線
- (十六) 德島鐵道會社線
- (十七) 函樽鐵道會社線

第三節 官私鐵道併立時代ノ官線

- (一) 北 陸 線
- (二) 奥 羽 線
- (三) 中 央 線
- (四) 篠ノ井線
- (五) 鹿兒島線
- (六) 陰陽連絡線
- (七) 舞 鶴 線
- (八) 吳 線
- (九) 北 海 道 線

第四節 鐵道國有以後ノ建設線

第五節 鐵道國有以後ノ買收鐵道

第六節 東京市街線

第七節 改良工事

第八節 重大ナル橋梁事故

第九節 橋桁ノ基本設計

第二篇 鐵道橋梁ニ架セル各種橋桁

第一章 木 桁

第二章 工 形 桁

第三章 槽 狀 桁

第四章 鋸 桁

第五章 構 桁

第六章 特殊橋桁

第三篇 橋 桁ノ 設 計

第一章 橋桁ノ幅員ノ決定ニ要スル標準

第一節 軌 幅

第二節 建築限界

第三節 桁幅ト橋梁枕木

第二章 橋桁設計ノ方法

第一節 設計荷重

第二節 示方書ノ變遷

第三節 計算方法

第四篇 橋 桁ノ 架 設 法

第一章 鋸桁ノ架設法

第一節 足場架設法

第二節 連結架設法

第三節 どりっく架設法

第四節 帆柱式架設法

第五節 網渡式架設法

第六節 手延式架設法

第七節 横取法及廻轉架換法其ノ他

第二章 構桁ノ架設法

第一節 ごらいあすくれーんニ依ル架設法

第二節 足場架設法

第三節 架空式架設法

第四節 えれくしょんとらす使用架設法

第五節 簡易べんと使用架設法

第六節 けーぶる架設法

第七節 浮船架設法

第八節 横取架設法

第九節 廻轉式架設法

第十節 縦送り架設法

第十一節 どりっくくれーん使用架設法其ノ他

結 語